2026年度入試結果総評

―鹿児島県―

令和8年度の鹿児島県公立高等学校（全日制および定時制）の最終出願者数は、推薦・帰国子女枠を除いた学力検査定員10,425人に対し、7,986人となりました。募集定員は昨年度51人の減少に続き、今年度も49人減少し、総計11,694人と年々減少傾向であり少子化の影響が顕著に表れています。平均倍率は0.77倍で、昨年度の0.81倍からさらに減少し、16年連続で定員割れとなっています。学区別では、唯一定員以上を保っていた鹿児島学区でも0.97倍となり、すべての学区で1倍を割る状況になりました。

一方で、出願者数で鹿児島学区内を高校別にみると、鶴丸高校1.47倍（前年1.38倍）、甲南高校1.43倍（前年1.34倍）、鹿児島中央高校1.64倍（前年1.55倍）となり、トップ3校はいずれも前年より倍率が上昇し、高倍率を維持しています。

また、令和7年度入試からは推薦入試の選抜方法が変更されました。自己の特徴や長所をより発揮できる高校への出願を促すため、「学校推薦」に加えて「自己推薦」による受験が可能となりました。ただし、推薦入試の募集枠は普通科で10%以内に制限されており、自己推薦の導入による影響は大きくないと考えられます。

【学区別　倍率】※最終出願倍率

鹿児島	南薩	北薩	姶良・伊佐	大隅	熊毛	大島	**県全体**
0.97	0.57	0.67	0.81	0.60	0.53	0.62	**0.77**

【主な公立高校（学科）　最終出願者数と倍率の推移】

		2023年度 令和5年度			2024年度 令和6年度			2025年度 令和7年度			2026年度 令和8年度		
学校名	学科 コース	一般 定員	出願 者数	倍率	一般 定員	出願 者数	倍率	一般 定員	出願 者数	倍率	一般 定員	出願 者数	倍率
鶴丸	普通	301	372	1.24	288	369	1.28	287	396	1.38	288	423	1.47
甲南	普通	288	426	1.48	288	412	1.43	290	388	1.34	288	412	1.43
鹿児島中央	普通	290	403	1.39	296	447	1.51	296	458	1.55	288	471	1.64
武岡台	普通	218	274	1.26	227	278	1.22	222	240	1.08	217	241	1.11
	情報科学	78	100	1.28	73	101	1.38	74	77	1.04	77	60	0.78
松陽	普通	209	238	1.14	204	223	1.09	190	158	0.83	178	174	0.98
鹿児島南	普通	147	164	1.12	149	177	1.19	144	161	1.12	144	168	1.17
	商業	67	71	1.06	71	84	1.18	60	77	1.28	68	74	1.09
	情報処理	36	45	1.25	35	48	1.37	36	40	1.11	34	31	0.91
鹿児島玉龍	普通	110	162	1.47	116	153	1.32	106	124	1.17	100	172	1.72

※一般定員は、募集定員から推薦入試の合格者数をひいた実質の定員数をあらわします。

上記の倍率推移からも分かるように、鹿児島のトップ3校（鶴丸・甲南・中央）や鹿児島玉龍高校を中心とする主要な公立高校普通科の実際の倍率は、県全体の学区別倍率と大きく異なり、鹿児島地区の公立高校普通科入試は依然として「狭き門」といえます。この高倍率を認識し、公立高校入試に向けて早い段階から計画的に対策をとることが重要です。

また、鹿児島県教育委員会では毎年、公立高校の全受検者の得点を集計し、各教科の平均点を公表しています。入試は各教科90点満点で実施されますが、中学校の履修内容だけでなく、小学レベルの基礎力で得点できる「目安点」が各教科18点（総得点450点中の90点分）含まれているのが特徴です。次の表は、過去の全受検者の平均点をまとめたものです。学習指導要領の改訂に伴い、入試問題の傾向（論述問題の増加など）や難易度には大きな変化がありましたが、近年は平均点が240点前後で推移していました。しかし、令和8年度の平均点は、直近10年間で過去最低となり、前年度を大きく下回りました。

鹿児島県　公立高校入試　平均点推移（各90点、計450点満点）

	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
国語	50.5	49.1	44.7	55.1	50.4	57.8	51.1	54.9	54.4	45.7
数学	40.7	45.2	38.2	42.3	47.3	39.0	47.0	43.8	38.9	36.7
社会	51.3	49.6	45.8	48.4	51.2	53.1	51.5	49.4	50.6	46.9
理科	43.6	50.6	46.5	43.0	47.5	53.9	50.1	48.8	48.7	44.1
英語	52.4	44.0	46.2	47.5	52.1	39.6	47.4	43.2	41.8	42.9
合計	**238.4**	**238.6**	**221.4**	**236.2**	**248.5**	**243.5**	**247.1**	**240.0**	**234.6**	**216.3**

下の表から年度別に比較すると、平均点の推移に大きな変化は見られません。しかし、鹿児島県全体の受験生において、総得点360点以上の割合（5.82%）は大きく減少し、100点未満の割合（9.22%）は大きく上昇しています。このことから、高得点を取りにくくなっていること、基礎の定着ができていない層が増加していることが考えられます。特に英語以外の平均点が下がったことを踏まえると、苦手教科を抱えたままでは不利になることが予想されます。したがって、苦手教科の克服が合否を左右する重要なポイントとなり、場合によっては「たった1問」が合否を決めることもあり得ます。5教科目の中で苦手意識がある教科・単元は早めに克服するようにしましょう。

さらに、下の資料（論述問題の割合）に示されているように、「論述問題」・「作図問題」の比重は高まっており、「会話型の問題」「文章記述問題」「公式の証明」などへの対応力も求められています。そのためには、「問題文や資料を読み取る→考える→自分の言葉で表現する」、「計算過程を文章で説明する」といった練習が欠かせません。

中学3年生は、これらの点を踏まえて鹿児島県の過去問演習だけでなく、他県の公立高入試問題や入試本番同様の形式で行う模擬試験にも取り組み、多くの実戦経験を積んでおく必要があります。

【鹿児島県　公立高校入試　受験者数（400点以上・360点以上・100点未満の割合）推移】

年度	平均点	受験者数	400点以上の割合	360点以上の割合	100点未満の割合
R8	**216.3**	**7719名**	**0.30%**	**5.82%**	**9.22%**
R7	234.6	8213名	0.57%	6.54%	3.46%
R6	240.0	8957名	0.27%	6.62%	3.44%
R5	247.1	8735名	1.12%	9.97%	3.79%
R4	243.5	8873名	0.97%	8.50%	3.40%
R3	248.5	8798名	1.39%	11.10%	4.69%

【鹿児島県　公立高校入試　論述・作図問題の割合】（令和8年度　90点満点中）

	国語	数学	社会	理科	英語
記述・作図配点	36点	17点	27点	16点	39点
割合	約40%	約19%	約30%	約17%	約43%